

# 農作業特報

## 春の土づくり 「いざ、土づくり！ 美味しい富山米を届けよう！」

### ① 土壤改良資材や有機物の施用

土壤改良資材や堆肥などの有機物を昨年秋に散布しなかった場合、耕起前に必ず散布しましょう。

	資材名	施用量 (10a)
土壤改良資材	粒状ケイカル	200kg
	鉄入りシリカパンチF	100～120kg

	堆肥名	施用量(10a)
※有機物	発酵鶴ふん	90～120kg
	牛ふん堆肥	1～2t
	豚ぶん堆肥	1t

※有機物の運用は場や地力の高い場合は、基肥チソを1～2kg/10a減肥してください

### ② 深耕による作土層の拡大

耕起は、作土の深さ15cm以上を目標（現状より3cm深く）に、トラクタの速度を落としてゆっくりと行いましょう。

作土層を深くすることで根の伸長を促し、気温や水分の変化を受けにくい稻体にします。

## 育苗～田植え作業は計画的に

コシヒカリの高温登熟の回避と老化苗防止のため、5月15日を中心とした田植えにあわせた作業計画を立てましょう。

### 【5月15日植えにあわせた作業時期の目安】

種子の区分	消毒	浸種	催芽	は種	搬出	田植え
温湯消毒済以外の種子		4/17頃				
温湯消毒済種子	-	4/17頃	4/24	4/26頃	4/29	5/15

※温湯消毒済種子の「比重選」と「種子消毒」はしないでください（浸種作業から始めます）。

※穂数確保のため、70株植えに対応できる箱数を準備しましょう（目安：21箱/10a程度）。

## 健苗育成のポイント

### ① 比重選

◆充実の悪い粒や、ばか苗病等の保菌粒を除去する。

・比重：うるち1.13（硫安2.6kg/10ℓ）、もち1.08（硫安1.5kg/10ℓ）

※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選が終わったら、種子を十分に水洗いする。

「温湯消毒済種子」を購入された方へ

直射日光を避け、風通しが良く、温度変化の少ない場所で保管してください。  
また、ねずみの食害に注意してください。

### ② 種子消毒

#### ・浸種

◆発芽を揃えるため、十分に吸水させる。

・水温10～15℃で7～10日間程度（特に、浸種初日は水温12.5℃程度に保つ）

・水は1～2日ごとに交換する。また、こまめに袋の上下入れ替えを行う。

浸種期間の後半は、毎日水を入れ替える。

（積算温度で100℃以上が目安：水温×日数=100℃・日以上）

・水温が10℃未満では芽の伸びが悪く、不均一となりやすいので注意しましょう

・水温が15℃を超える場合は、毎日水の入れ替えを行いましょう

・浸種桶は直射日光を避け、温度変化の少ない場所に置きましょう

### 「モミガードC水和剤」による種子消毒

・処理方法：浸種初日に200倍液に24時間浸漬する

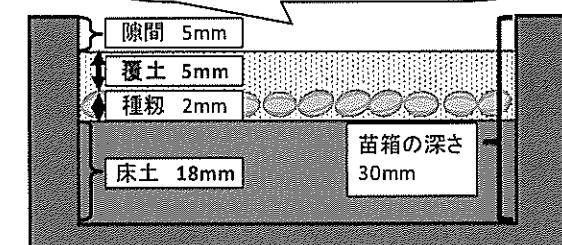
・薬剤は少量の水でよく練って、のり状にしてから、所定の水量で希釀する

### ③ 催芽

◆温度は30℃で行い、芽の長さは「ハト胸～2mm程度」とする

育苗器の場合は30℃で1日を基本とするが、芽の伸びに応じて時間調整する。

軽量培土の場合は覆土を多めに（床土15mm、覆土8mm）にしましょう。



は種後のイメージ図(加工床土の場合)

### ④ は種

◆は種量は、乾糲120g/箱を目安とする

（催芽粉で150g、容積200mlが目安）

※は種前に空箱で、は種量を確認する。

### ⑤ 出芽

◆育苗器は30℃で2～3日が目安

※育苗器のサーモスタートや温度計が正

常に作動しているか、こまめに確認する。

・芽の長さが1cmに揃ったら、ハウスに搬出する。

## 育苗期間の温度管理

育苗期間の気温が高いと、苗は軟弱徒長となりやすく、細菌性病害も発生しやすくなります。ハウス内の温度と水管理に十分注意しましょう。

### ◆ハウスの生育時期における温度管理の目安

	緑化（2～3日）	硬化期（13～15日）
昼の温度		25℃以下 ※30℃を超える時は、搬出直後でも速やかに換気する。
夜の温度		10℃以上 ※5℃以下の低温が予想される場合はハウス内の保温に努める。
かん水	・搬出時に覆土を落ち着かせる程度 ・ハウス搬出後は、水分不足や高温による葉ヤケに注意する ・床土の種類によって水もちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意する。	・床土の乾きに応じてかん水を行う ・水のやり過ぎに注意（カビや病気の発生を助長し、根の伸びが悪くなる）

注) ハウス搬出後は、寒冷紗などの被覆資材で2～3日遮光を行い、苗の白化を防ぐ。